

学会参加奨励金報告書

学籍番号：R22-031

名前：栗田 葵

学会名：第 81 回日本放射線技術学会総会学術大会

開催場所：パシフィコ横浜

開催期間：2025 年 4 月 10 日(木)～13 日(日)

学会参加の感想

今回参加した日本放射線技術学会総会学術大会は、私にとって初めての学会でした。会場の規模の大きさに驚きつつも、多くの学びを得ることができました。医師、診療放射線技師、学生など、幅広い方々がそれぞれの専門性を活かしながら、新しい医療機器や今後注目される検査・治療について発表されており、診療放射線技師に求められる知識の幅広さを実感しました。発表内容が十分に理解できず自身の知識不足を認識できました。今までに学んだ内容を復習し、改めて学会に参加し、新たな学びを吸収できるようにすることが重要だと感じました。

核医学に関する発表を主に聴講し、そこでは頻繁にルテチウム-177 を使用した放射性薬品が取り上げられていました。ルテチウム-177 は、神経内分泌腫瘍を対象とする核医学治療に使用される放射性同位元素であり、これまでの治療方法と比較して高い効果を発揮すると報告されていました。重篤な副作用が少ない点も注目されており、さらなるニーズが拡大することが予想されるとのことでした。このような関心の高さにて、多くの核医学治療に関する発表があることを知りました。核医学の発展が、がん治療の質を向上させ、患者さんの QOL の向上に貢献していることを強く感じました。

さらに機器展示も非常に充実しており、多くの最新技術に触れることができました。例えば、キヤノンが開発した立位で撮影可能な CT 装置が展示されており、CT や MRI、マンモグラフィを搭載した検診車も展示されていました。検診車として使用される車両はバスを改造したものが多く、バスの座席を一部残している車両がありました。また、マンモグラフィ検診車の内装は、ピンクを基調とした壁面デザインが採用されていました。これは女性患者さんが少しでもリラックスして検査を受けられるようにと考えられた配慮でした。このような細かな工夫により、技術の進歩だけでなく患者さんが安心できる環境を作る思いやりに感銘を受けました。

今回の学会参加を通じて、私は診療放射線技師という職業が患者さんを撮影し、診断可能な画像を提供するだけの役割ではないことを改めて認識しました。診療放射線技師として、診断や治療の質を向上させるために新しい知識を吸収し、学び続ける姿勢が求められています。そして学会で得た知識や技術を現場に持ち帰ることで、より多くの命を救うことができるという使命感を強く抱きました。この経験を糧に、今後も自己研鑽を重ねるとともに質の高い画像提供や患者さんの安心に繋がる対応を心がけ、医療現場での貢献したいです。